

$\mathbb{R}^2$  上の定置関数を次のように定める。

$$1 : \mathbb{R}^2 \rightarrow \{1\}, \quad (x, y) \mapsto 1 \quad (1)$$

有界集合  $D \subset \mathbb{R}^2$  上の関数  $1$  が積分可能である時、 $D$  を面積確定であるという。  
また、 $\int_D 1 dx dy$  を  $D$  の面積と言う。 $D$  の面積を  $\text{Area}(D)$  と書く。

1. 積分定理が使えるような 2 次元領域  $D$  は面積確定であることを示せ。
2.  $\mathbb{R}^2$  上の 3 つの  $C^1$ -級ベクトル場  $\mathbf{f}_1, \mathbf{f}_2, \mathbf{f}_3 : \mathbb{R}^2 \rightarrow \mathbb{R}^2$  を次のように定める。

$$\mathbf{f}_1(x, y) = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix}, \quad \mathbf{f}_2(x, y) = \begin{pmatrix} 0 \\ x \end{pmatrix}, \quad \mathbf{f}_3(x, y) = \begin{pmatrix} -y \\ 0 \end{pmatrix} \quad (2)$$

積分定理が使えるような 2 次元領域に対し、以下が成り立つことを示せ。

$$\text{Area}(D) = \int_{\partial D} \mathbf{f}_1 = \int_{\partial D} \mathbf{f}_2 = \int_{\partial D} \mathbf{f}_3 \quad (3)$$

.....

1. 領域  $D$  はある集合  $I$  に含まれていて無限に広がっておらず、縦線集合又は横線集合であるため、積分する順序が決まっている。

$D$  の境界  $\partial D$  は有限個曲線  $C_i$  を繋いだものである。

これにより、 $D$  は境界に囲まれた領域であり、この領域は 2 変数の一方を固定すれば直線で表せる。この順序で積分することで面積を求めることが出来る。

2.

$$\frac{1}{2} \begin{pmatrix} -y \\ x \end{pmatrix} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 0 \\ x \end{pmatrix} + \frac{1}{2} \begin{pmatrix} -y \\ 0 \end{pmatrix} \quad \text{より} \quad \mathbf{f}_1 = \frac{1}{2} \mathbf{f}_2 + \frac{1}{2} \mathbf{f}_3 \quad (4)$$

これにより次の式が成り立つ。

$$\int_{\partial D} \mathbf{f}_1 = \int_{\partial D} \left( \frac{1}{2} \mathbf{f}_2 + \frac{1}{2} \mathbf{f}_3 \right) = \frac{1}{2} \int_{\partial D} \mathbf{f}_2 + \frac{1}{2} \int_{\partial D} \mathbf{f}_3 \quad (5)$$

積分定理が式 (9) を満たす定理であるなら、 $\mathbf{f}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ x \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} P(x, y) \\ Q(x, y) \end{pmatrix}$  とすると次の式が得られる。

$$\iint_D (1 - 0) dx dy = \int_{\partial D} (0 dx + x dy) = \int_{\partial D} \begin{pmatrix} 0 \\ x \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} dx \\ dy \end{pmatrix} \quad (6)$$

これにより  $\text{Area}(D) = \int_{\partial D} \mathbf{f}_2$  が得られる。同様にして  $\text{Area}(D) = \int_{\partial D} \mathbf{f}_3$  である。

これを式 (5) に当てはめると

$$\int_{\partial D} \mathbf{f}_1 = \frac{1}{2} \int_{\partial D} \mathbf{f}_2 + \frac{1}{2} \int_{\partial D} \mathbf{f}_3 = \frac{1}{2} \int_{\partial D} \text{Area}(D) + \frac{1}{2} \int_{\partial D} \text{Area}(D) = \text{Area}(D) \quad (7)$$

が得られる。

よって次の式が成り立つ。

$$\text{Area}(D) = \int_{\partial D} \mathbf{f}_1 = \int_{\partial D} \mathbf{f}_2 = \int_{\partial D} \mathbf{f}_3 \quad (8)$$

## グリーンの定理

$D$  を有界閉領域、 $P(x, y)$ ,  $Q(x, y)$  を  $C^1$ -級関数の時、次の式が成り立つ。

$$\iint_D \left( \frac{\partial Q(x, y)}{\partial x} - \frac{\partial P(x, y)}{\partial y} \right) dx dy = \int_{\partial D} (P(x, y) dx + Q(x, y) dy) \quad (9)$$